

上昇気流

全日本ピアノ指導者協会（ピティナ）が設立されて今年で四十周年。東京音楽研究会として始まった当初、活動はピアノの基礎教育をテーマにした公開レッスンやセミナーが中心だった▼コンペティションは昨年で三十回を数え、参加者三万八千人という、わが国最大の規模に発展。「先生方が自身が強められるという事が、ピティナが発展した最大の要因」（40周年記念特別座談会）と評議員の戸沢睦子さんは指摘する▼先月末、東京のサントリイホールで「ピアノコンチエルトの夕べ」も開かれた。ピティナがはぐくんだ三人のソリスト、須藤梨菜さん、金子一朗さん、関本昌平さんが、渡辺一正氏指揮のNHK交響楽団と共演▼夢の共演を実現した須藤さんは、リストのピアノ協奏曲第一番を弾いて、お祝いのコンサートを華やかに盛り立てた。金子さんはラベルのピアノ協奏曲ト長調を、鮮やかな技巧により色彩豊かに表現▼金子さんの本職は中学・高校の数学科の教師。二〇〇五年に特級グランプリを受賞したが、この四年間はセミナー、公開レッスン、フェスティバルなどの機会を利用して、多くの先生と交流したという▼違った指導法による違った演奏を聴くことが、勉強になるのだ。関本さんは二〇〇五年のショパン国際ピアノコンクールで第四位入賞。ラフマニノフのピアノ協奏曲第三番は力強い演奏で、教師たちの熱い思いを実現させた。